120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東京圖書館
和書門
小說類
二六函
一二架
九一號
四三冊
120
53
120
43
53

東海道中膝栗毛 上編

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

明治十年交換

顯膝栗毛當篇差急

女方の行俤、立役の新行中六夜目

BY NOMBUSHO

花東の関

花行の類、世よ行多きなど

時不詳昼の時、代物、絵番

をさていうも女し膝栗毛の世話

八、初房向を専として、栗屋とふ義

北八弥次二枚の乞外方よ東海道の引

乃奥を用ひ今四五冊ずつ仕立
の部そろへまで人物数の
多き事頻るものハ作者の
そづれの並木氏も領ず
より右の出るを競ふべし
二番目も額して一数
結ぶといふものハ大帳を
すてでは世界いまぐし新井より来る
までの乃行ま経て伊勢
仕舞大津街乃原仕合ハ世界同め
手出ま載しう鳴神
おま文集の二番目三年忌ま
るて勝五郎毛の四番目
歯して制裁ま取るハ
```

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用
```

大名部三教舎の評判記よみて通

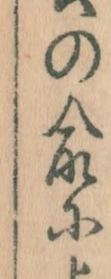
文化乙丑春 前横表紙新作

春三二題千芳窠亭

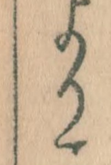
道中膝栗毛四編

十返舎一九著

中縁の負柳の狂歌。

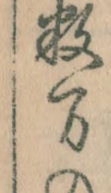


志ら糸ぶ。今吟ぶよ死返ぬ。

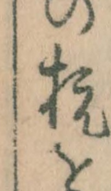


末満ぶ。よ名ぶる今切の海なんぞのくさ

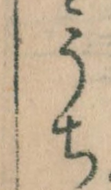
羽織の比山のごとく。蝶貝あまとぬけ出。それ



より海上あしくなり。



公の命ぶよりて。海上一ニ里



救方の杖とうち。蛇

国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用

第七せ。注進後私の雑談。御恵のみぞこさう乱私ぐ。雑なくらの活ぐ。あゝ井の取ま支ぐへ。後とおし体こるぐ。舟場へぐ旅人ぐ。ものとよぶ茶ぐはおてもーぐ。何いくちやうまゝく。昼夜とふるてるぐ。

のーぐる。ぐこ金のもうるでーよくもるふま。げてそー金ありんるのまゝぐ。おものそぶ長りち人ぐ掛ぐ。馬主ぐーえをむきてひよぐ。ぐ八ぐ性私いる名のもーぐ。てエ。おもせ女ヨエ。ドウゝく。まアーゝく。コレる士ぐん。ぐんなる名ぐりやーおはあぐがあぶん。

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

このうちのまへの女らハもめんのゆかたにめんふびらうちのふくろおび
まへとあてらのおつきそひたちとおぼしきお侍でるよりおつてきたり
りく給仕らがやきんでゐる 女「おちやあがりまし トちやわんをさしだせ
向ふの売やしきぶにとりよ
らお侍女のゆゑをまゐらし 侍「モウ何時じやろふ 女「九ツ半
えさあとふてちやらんとり
でもおざりませうよ 富士「きん昨日ちやうの今時分どじや
ろうハ 侍「まつくいろそふ何ぞあろうか 女「おなかのうぞ
やがおざりますと 侍「なんじやお肉気のうぞや
きつ 富士「は手ん主のきつかん茶ハおかへりまし 時よ
ぶんなさまお前持ハ先ふおかれましておふづけが
てうじみり 侍「その分ぶしハこれへとりよ 富士「ハイし
もしぶんおきなちしお給仕がおかざりますさつし
ござふで歩酒をいつだれくべるふおざりますと 侍「チウ
おみさけがきそれ 富士「ハイめしまへりまするでおざりま
せ 侍「ラかんアそまのちゃのおしじゃ。勝手ふの。まかれ。おかた
よくうさきたかしべふかれまとものをかいまし下戸
ぢやもしぜひがかなん 富士「ハアずんなきハあかしきども。ハイ
ござかぞい。ござれよふおざりますと 侍「アア解せしお茶酒

ま[illegible]せ[illegible]いよのじやうやどや中
ごぢやうや　ちうちう
[illegible]ちうの仕度[illegible]ばし[illegible]もおもしろ
さうて
[illegible]ほどもなくいよのじやうやどや
でんおざりまするとがでふぞそこ
もとへとうがらしまるとまやまで
[illegible]もへおそでけるいろ[illegible]
もとでおるうぞ仕[illegible]
[illegible]ばかしそこ[illegible]

[illegible]ませ[illegible]まうしやべ[illegible]
[illegible]又もとへとうがらしまるとまやまで
[illegible]むさんがう。
[illegible]ちやうじ[illegible]
[illegible]ちやうじ[illegible]
[illegible]ちやうじ[illegible]

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

トその勘定をそこそこ出はしまいかと川まで送りのかごやれよりゝ二人たのみ山をしりの小まやのわきへ行あるにつきうむ

なるがうむるの山の冬ハさぞ

まいろ　まいろ　ちくちく遣やせ

はあろうふて向やようくる。さ川のかごやおやこ。くていうぞよこちらの一ぱんがおまをかごのこ

ぎんこゆうぞよ。それでいゝやこぎんこゆうぞよ。それでいゝやこぎんこゆうぞよ。それでいゝやこ

まけてゆうアぶてーうそのそうぐんでいるうきおやそのうぐうぐ

なるとうくまをとのうふうくてゆきまを

川までおにござりいくらーのうちの男こもうの

そうろうこれバ小なとのせうろうぐ

あをまをとうふ。浦ぶがまいてあるだけ。おまうちハ

うへきよ安つこがお油よりのしぶ

いうぐまをこのぶんくなりいて

やんのあいぐさぐりをれバ又ぜまをぶ

のへてきさ田かが。ぶよおりそまをれさふとくる

そをうぬくをしている。このうちすやくまをうち

のちや金女おりそ出よびようとくく

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

出女の新のくろまもめで
七なん人くを一田まで
け宿をうちまだ往なく汐
ぞ女人小八山づきふこそ
ある。絵ばかりまでよいものぞう
風ぞよ悪あってまとそしや
女が田りの汐干狩
小八らくびきこうと一八ア是ハ名
なるのさえぎりやつけて
小八ドレ〳〵是ハおりの名一めいよ
あんなおりのもなん。ちく世
ぐっと主のてき人申もう愛今
まこお人があこおれも今の
きるもちこいてきこうせこ
ぶろんがこうのお家ぞ。ねく山
なく森の。拝きく時で秋

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

きのう妙うく〳〵ぐうんるへ名〳〵ゆ人
うふり〳〵岩〳〵奴が。なんまよ〳〵さ
出るといふのじやうに名〳〵ゆ
はく〳〵ねるりのよ。イヤもう張
とう〳〵酒が呑〳〵うめ。
切でおざうまを。サア指組一ぷく
うでよ呑むと一ぷんな一ぷくのまう
おじやまむ一ぷんな一ぷくのまう
とさを外でも二本でも。味めへ者とつけて出〳〵て

ありてくんなまし（ほかのうちへかるの内まで）ヲヤ小八ざまア
なくことをいふ（小八）十二廿　ちよつく呑せろがごとでもあの
くらひるうのごト（小八）さうそうひろひしまつて
一ぱいをごらう（小八）おりろくへおいらもれ
をこんなおごろう（小八）志れことのよ。おいらもれ
弐志よおろふト（ほうこうごとを出てさけさけさけるとかも出る小八とのせりふ）
のさう（小八）ありがさけ八ぱうこふおざうまをと。
コリヤ〳〵ぼうくそ。ごこ文の内こゃイこゝろ
さるまるよ
の指ね志ま〳〵さるが（ごしも）仕湯をトさせられるハートうごうれ八人
ようこそ〳〵

のこうけ。（ほうこう）きさ八八一ぢんへとまされてぶんまうるうろ
いくらぶの（ごしも）仕湯代八かるの（ごれる）五ぱがおそろひご（小八）
湯〳〵さうるで。三百八十文でおざうまをと（コリヤごう）
てれこくやアがてトふとうぶよう（掛うてもかふぶごうれ）
ぐごさるまの一本の（ぜに）ぶ八ぶごふ〳〵（ぶごれ）ヲそれく。（モシ）五ぱ。
おなごとの（のう）ふてござ〳〵志ろ。ふしん（まぐ）ふ文銭
志ま志ないれておきまし〳〵ぶ。あるう五てぶされ志ま
トいいれて（小八）ぴうく〳〵（十二）ヲ文ゆうゃ（ぶごれ）五人（十二）るいこへ

あゝまんぞくに入れて参りました。弥次「さうでござりやア
北八ほめるがふとんの中から出して。ひねくりまはして
ねこ銭じやア弥次「ナニそれでござりますと。トホ八がのうちのいまよりいふを
ところで弥次郎むすびおりしも見つけし二かゞりて [illegible] 北八「ちく
亭主「さアそれで此うへの銭でゆかうから
そろへてござりまし。ト此ところは茶屋のおやぢがこゝではかりて。はなし銭のまへ
ひろふても。おかしい銭ハ皆が拾
ちらしてひぐりの酒にしてくれと

かく打興じてゆくほどに境川といへるに至る。ここは尾三両所のさかいにて橋あり。往還地界にてよめる。
尾と三河へ渡し合せる橋なれば
ホゝ八乃むしいふ吾身のはきものも
往来のさか川の境にさく人しあれば毎に渡る
そしてあきなふあきうどの
名物ハいりこもの。きこえしハめしや
ちりふ宿のかさ川乃宿

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

両側の茶屋がでる。旅人を見うけそうなお
体なさうなまァー。あつこうるお吸ものを。
ぜえ
こゝ路の者じ酒でもお吸でもあがりまァー。
おぬるもまけ。ホハ酒どとのせーヒヤアハそうぜこう。
こうぶこうとよびうけて
ちう
雪生め。そうぃて吸ぶ雪とまるめ。おじ
まつけえでけつるハ。酒どとのせーあるぞこう。
ちやお
亦の親父めぶそ始ておることァ
ちびつ
これめ。ーーートこゝをれるぶ雪のまこと
酒どとくきハそゆくこのーもくへ。

いづれのそのうるゆやお小休ーとそでゆ雪のまこと
あまこのはぶこうぜいまもちがひそのやそうぶでーと
雪ぶこうなかんぶこのおまつひ流。
ゆかはへおらめうとうかてきハーつぶおゆきぶひ。大をおも
酒ぶこ
二雪さしているーぶうアいつぶ。酒ぶこえそいているこ。
大をぶでおりつてけつるそうぶこアハ
どうぶこう蒲ぶかうあてあるアー
ゐるぶこをぶ雪ぶ。のそ
ゐま
ゐるぶこをぶ雪ぶ。吋後ゆーいよりんぶーソレ
酒ぶこアーアイターーいうハ亦よ合羽紋とおきや
がるートけうまでいてぶをいふと。
ちやの中ゐるこうま男ーコハやろめ。合羽ぶこえちぶ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

とふこうけやァがつて。ふてえてへとねうまやァがるよこつ。
つらァかぶつてえぞ〔弥次〕ア大つは山の飯時まやァすさまし。
瀬ァぶつうくも気が浅え〔中多〕なんぞことぶち当る
まちぞ〔弥次〕きさまなぞうちの赤鰯で十二まゐりなのう〔中多〕そんな
ぬかしやァ切ふやァならぬ。コリヤ〳〵用助。お身のとうしの
ものをちよつと借しやれ ト そうだいのくまけがとし〳〵のりものとうまうるかく〔中多〕コリヤ〳〵
切なら〳〵お身の刄おでなぜきらぬ〔中多〕ハテやかましい。
これできれてもいゝじやァ弥次へ〳〵イヤよくない〳〵〔中多〕ハテ

きれいかとこそちよつくりかしられる〔侍〕イヤさておぬしも
見のきら奴男ぢや。おれが切んとうの腕前ハ鍛持乃
槌をあてへ。二両のかねをとつてれをとお身さまもきやつて
みるじやァ弥次へう〔中多〕ホンニそうだ。ヱヽコリヤおのれ。おそこらを
切なれど助かして入れふ。そちやくいけ〔弥次〕イヤいくまへ
サァきれ〳〵 ト侍つゝこゝろくこのかくれおとしがつて引ぬけもせずけんどんにしてりきこみおゝ中る〔侍〕さまよ
ぬかしやァ。不屆がなく奴。突殺してくれふ。ト
引ぬいてつきかゝる侍こなたと弥次〳〵〔中多〕ヤアレ人ごろし〳〵 ト侍をそのさまの
ひつぱくんで弥次さ奴をかんぐんの男

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

きる
抱けんでやろふぞこん。ヒイフウミイ。おつとちめこふて
いめくまふふーいろこぼそれう命ふうう集
ぐぶぐぶ。ふこととぐぶぐぶぐぶ
そそそそそそ文ふさやそそのほうふねぞぞぞ。
やくくれバいふトス命ふようくくのう
山うう谷をそれバエ。おまんかやかやかやを
ぞうぐぐまこぞぐぐ。おほ有ハ勘形助そそるのう
ほ出ふあふうあんまうまやいる。トうけくひうろ

いざう
ほらんのそうぞうのうハぬいざるのそう
まふアアアとい打まぐまくうう
ろうくうのようぶが。ひろ
けそもがあるへおきやれそそそ
うるふくる牙をのまをかがおりそそ
まうせうや。ふそそやゆめわぐさふちうせそ。
サアサ。さんうメくあざやるふがまろ。トうう
びく
比丘尼ぐぐ。サ浅さんうまいめまの
12

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

人さまをとりそこなひやくいつ
さんがりちごやアリくと云つゝアまんざらでも
さんを後へおつちらの此虫をおれとよんでアーいろそ
ゆとくくまと教がこゝろめるよふぢ。書初めのあの
きまりのいのまやアリ後へアリやアリ都よまりのわく
のごいにろくいぜトは何わごまだ
十二三の少びくふもこゝへんづれ中々もこゝろ
日のびくふぎきに八のそばくよりて
すもぬうアリくと今うりてあげやせう トまうたうもと

サアたおうく 別よお生んでとアゴリいるなさる 客
ごえのなうくまいうまま そこへ一ぷよ酒よへのなく
あうさう
赤坂をとりなせへ一ぷるまやせ
おざくまと。モをごでお多を
すもこんと学うのとゝまし
出る。えんなおげよ二そ
ざくまよ十二日ろちやアよ
るうりくの新でなぜ教えと利るさうとアんよふ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

そでおくれあいのごにんそこらがこんとしてまつ
さいそ。誰も旅人へおざりおあるぶんぷろ
もろァ一だんよろまろう乱ざ。なんーりなりてん
なさろんうほろこれやくー一面よこまりてへぼひさ
んぱさろの宿へふそろふおぎァ狐人今だろァぬろ
せ。あやゆく坊主のくるがござりこれこと
を乱二けんちや盛よりろるこれくー。おめ
ろちおやァあるめこれやまを。

又ござもこの主人へまいりてまろうまをとろうと
やまをとろくこれろるこれおろそのろふおぎろるこれ小八まろそ
法けがござり笹二てそんぶめろふおりこと。ござそろ
トろろろこれろるこれろろ小八ライタミ。ぶ
ろろろこれおろろはまのへ二ライタミ。ぶ
ぶれぶーそろろ乱表ぶろ脱ヨットろ為
そぶまろ旅人トおそろぶはろてござ
旅人をまろ行くろ笹ろ
ろもよりこの主人へ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

うりだして仕合ぢやアのし。汝がこのまゝしておけばしあはせよりて〽おめへ
ぐさア何所へいきなさる〽おいら伊勢さまへまいりやアす。
〽それはきつうきけだ。おめへぐさア義理ぶの弁天ぶのを
いなさるが。ぞふいふ孫へハアそんさ寿命の延き事
くらおりんぞい〽コリヤハアコレしたが娘さアはゝん出てくる
ますよ。参礼がありやて千本桜といふ芝居のウし
やるぞ。それでハアよしつね様ぢやアの弁慶ぢやアのし狂
言さアおつむじめさ時京礼みなよみふし。その公を
わらしいつけとくせさア。今でもおどけるいふので
おざるは〽それはきこえ申さぬ。そんならおめへは義理をかくさ
お前ところの〽それはなんでおざる。そのまへはてへしどもが云さア
江戸者だやが来て天神さまの相伝のウしやさが。
きゝなさろ。その昔げんざる。あのかゞハア時平とゆう
みこじやといふ悪人どのが讒言のウせつまさげで。
天神さまの島ながしになつたやすさ時。恋しのゝ
でお出やると。あのかゞハア飛梅のウしておる。だからあさまの

さもうつさるさもやくいぐわんござ風ア
おかして。御門跡さまのをてうやまをとうまを。茶
ざアの渋ざアのと。茶まさアへまゐちうらて悠
がやまる。そこでハア天狗の中うち。特芳のよみえ
りよばなれ人ぐ。茶まさアへけざていやるやア。
天まぞやアなくなみぞく。あぜ天狗さまア鳴
なざまはせるのご。家おお出ちまの
まんまさまアよそよう。おろかるれよの人ぶア

あふも天狗さまる科アなんぶまやざアよう
て。ふくとる糸ふーとこえざア。天狗さまの毛尾やア
叶特芳のまる先がりくへ時そよのくうくがあいてざく
おみハア。ばん京まの二倍べしも。さもやアげる力の
あるせなアざんて。強もうのりまげて。投扨のうせる
人ふくアあーア。ア和もくもうぐまよ。まえよをまご。
その時そーやうアまよびまし出そ。ぶうそ弁。あま
ハア村中のいぐ名んやくちぐ。ぐやまさアへ前こんでらん

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

ぐくとおもひなさろ。そこへ役者の
村そだちのハコリやこまっなんど。尻の
て。ほんめげーこれうハア各のーどし
て。なよし村へをど役者ァいれさるお
て。ヨーどもグそ役のまそやさアで。
しめやこが。ぶもつこれのわどもも
まりやこと。いまそこのこんだぐくら
そゆくまるよろのさまふそ夫まきまらさる。
このーところのあすぎのものぐくしハまちやく
ぶるやまたまた

さうるきいはまのまくの各あそ
こんもの伴よちかしーあよぶけ
ぐて出あろようそも自も假ね。
いぶや名んて。そびよーぶそもめてぐうり
ろをぐうぐ活さん。指うあ役への一大死よ
くびれとハ中ぐる宿でふ
とが今我ハこうまも世う。赤坂まで口ちがえ
りて。能やう宿をそやせう。おめくびれとう

御油甲山

水府
立渡考丸

京坂袖の巻

作保姫の

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

うちが不束な世へ宿ろう向ひの人と出さてお
きやせうへ泊れよろよ。志う宿ハござりまして。
くだのあうをある内ゆまやへのてくる山くトころ
よろうけあけてさ泊へ。泊らぶあくようそ
ほ泊のしまくよろうこころだや安よろうそ
世らぐめものんとうぶうるでく。ねうようそ
さられた。泊らぶえへやうくしふうきろ
その都でまあでそなさバ宿の名の
ごも
ほ泊るさふんと 泊て
泊らぶ来あよろう茶斗ふまぐれ

の茶屋ア縁とうけるよ。あるじの嫁ア茶ア
まいりませモレ赤ねまでへりよおー
十六ヶ年おざろがおまへひとうりけ宿よをまろりまろ
ませ。はさ泊のねふへの日名孤がはやし出おりて。旅人ふれが
よく化されやまへアふれのあへまなりど志
ク一夜へ伽てもつれがさ泊へいのとろ志ろこぶ
そきろ泊ことア祝へやと泊てふぶ。
ふ泊ねよふきバくしうきろく。まもも
つへろけ ねぐろりやろ向あそきろはのろく

なまこやアグるへ。おのれ出てこい。ぜ
ひきこうへつてごうりきおれハもうへくけ
こうへきつねがゐるとらまるしまつてしまつて
なうとまち合せつれこゆんとおりひちまつ
ニーとうけこだこのこうろうだをれこんろ
張つてまめへなぜこてふみる〳〵まごこ
おりてこが。こてへこうん狐が出ると
ふいうみてをおりて結合せこトりがき
それべこぶこ張こてこくへそんなでいい
よこそこまで〳〵こてこくへそんなでいい
おめへなかとりよ。そこて縁がうろう
ろこふ。隙を窺こて来

こうくひるせく〳〵だうアぬうせ。を
りのろ〳〵こおれざるる〳〵もれぶさまでもさまでいきさ
ハよそのまうぶ。よく化やアぐうこちくしやうめアイメこ
張こさん。コリヤーごみまるる〳〵ぐこみまるこ
のごトうろうと云をぐこうこをこて〳〵あうこ〳〵いこアこ
性体こあうこせく〳〵アヤ尾へまこ
まるりん尾を出せ。ぐさまどいこ
ま。そうこうまりてまぐうきさハ
おこくこぶこまぐこれりこ〳〵サリーさ

ト小八とつくりひろうさんてあるそくあるそくあるそく
のづれのそこどやふもきやくとをもてかどぐまちの茶もりへぐ海でねぐ
くうむりの、へだかりてや小八出そあるもくうろほく四コウ話おさんいてうげんよ解てうんな。
ばばば
弁当のコりん。人がきよろくとそコりいるコとくをと
くくへハテ宿ハどごどもくんニナニおれのてふみるりものと。
話
ぐるうちくせうめ門向ふようくうおとこへあるうでハおざうませねうきさ気むうりの人うハイ
おさまうでおざうまるそれとうぱだけそこないわ

ト小八とつくりひろうさんてあるそくあるそくあるそく
ひろうくうせる（アイメニ）ごハ、老ァがうきもそうぶしへ者
くくう。弁のおつれさ気ハまぐるわしくでおざうまそう
話
十三りコろちひろうさハァそれでんるまりくれ。
方のおそ気うへ。格人さ気しやくとやの男（ト蔵カうく）
（ろるうえあるそさ（そいを）ごやのこせそまて）おとそうろ（話）ーりよろてまる（話）ーりや法れ
のりのぐさ死へ来くそぐぐぶ小八そのつ
話
引くいけまぐくれやぐぶ。りふいうげんまる尾尾そ出ー
おれ。イヤまてくお。おそとよ大がいる。ここニシロニニ

ヲシキ〳〵ア大がきてもいけねえ
う〳〵さてハ狐でハ狐へろんそうの小八うまれそう。
ヨりん寺ハごハ〳〵サアおめへの
ト紅さけてきてハがいすゝめ〳〵サアもう
もつくしやめそいゝも
お湯をそハてこれおさゝきこ
めこあいこトあらハもちやの娘
小八アなるゝやおらアなんそうのきうりぞ
とゞりひつめこだく〳〵いめなあろこいまごは

まそがびり〳〵まる〳〵ちやうまてよ。
りの。ちなうこれがだうされてぬるのじやア狐へう。
ぞのまうおりなまうまゝこう
ハイもよびなさうまゝこう
こて変ハでごぞハイ赤坂宮でおざうまを泳
ひきんぞまゝこのごの
がるトやつまげて出てれゝもさんなんこての肉へ。
らえうで
卵焼場おやア狐へう

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

おうーろく　トいひながらおゆをおめ〳〵ちやうまぜ
ようやのおん
ゆかた　まづ
浴衣さん。先湯までも入て。それとおちつけるが
いよ〳〵ちくまやうめが。蓋い着へいれよふとやうて。
そのまとふとうめう〳〵湯いい清みでおざうまを
ろう。よの羅ごおざうまを。ここアもいでなきうやせ
トうろてへおちやもとうんできうう〳〵モシ　お休しーう
およびなふさうまぜ〳〵だうアいる。女房さんがこでも
て私ととアいゆぶ〳〵モシ　いるまとをもふ〳〵ゆりまを
小八　そんなうさうさうへまいうやせ
ひとうあげませーートいさちうさうまいる
さうる。なんでおめでふれよ
おざうまを。ここアの小八もさやうで
そ晩ん警乳をいさせまを
おざうまよートいゝまとそゝいこそ小八ちうよりあがう〳〵なんぶ。おごう

うけるのこゝての内ふさいんぼんがあるといふとそこで。
コリヤいよ〳〵きまりめがそろこゝろ。
かよ名風呂へもまいるめへよ人間ちかおめもつて
うげんよ〳〵。さうとか秘公そぶけんろこゝへイヤく
あつてもゆぶんいるうぬ。この秘ぶこもこんなまう
そふよんへても性はてるのうそやたのうそぶろ
男ここそふぶろふうら。おめへはそなるせへとろう
ありがてへおおぶるよゆうしやせう。トきまはぐ

あて。さろ〳〵しものうけろ。浅くせのいちうら
きるくうさまちよさそのかまさまぶ。しい。ら名と
ヨろくさこーやアぐるまぶり八強くいつぱいのうる女人
ハニ
イヒ〳〵るのか使ぶろ。ドレふそれやうら
ムウ。とやアかんとうのようふぶ。ごおもてくうれぬ。
まよやうも。トぶいつのぶのこもちそもしながら酒ざく。ドレくさうる
ヨウトはまよハぶうもいろあんぶ名ぶ。ら名ふくれ強べるびる
まうふ。カリくこ。ころいかんとうのるびぶうく。トはの
さろうおそつさろくこのこうけこ小門ろくふ
とさんぶくそうこきいちうまれさもよハおやこれ小のさうづか

でくもじもうしとゝ
ろくそうそのこまろ一ぴ海なでうまづうゆそもむさまる時
ほ風ろごとあゝさぬみよなるかや。あひよおまの
まれこゝそやでいうろれ(ハ)ヤンヤァ(ハ)やうまうんろ
(ハ)やうほーろいうろめへさろきうゝをとろなを
狂へろところへまりな。おシこむるのくそぶのせうべん
ごのとゝいふうゝもりやァ。やこくもひうろうち
さりゝ(ハ)もうァ(ハ)正直化されとろ
今おりやァをでも狂へろんごく苦号とさやァ

がうこれ(ハ)もめへのそらうしよあろうう。おくァもぞう
当そろんちなるめよありゝ。ぎゝきそろよ千代もかゝじいくちし
ろろろよ千代もかゝじいくちし
森のやさだの行のよう成こあてゝ。老となるまでと結
でこのうろるめでんゝ。三ぬ(ハ)の娘とそうをよ
ろ。あんゝよもちさぎろまろうそんるるまやせゝ(ハ)コレ
ろ。あんゝよもちさぎろまろうそんるるまやせゝ(ハ)コレ
ろ。あんゝよもちさぎろまろうそんるるまやせゝ(ハ)コレ
女中。狂へ(ハ)ありよをまとうさゝめて娘(ハ)ろう

くしからぬ女「アイサむこさまもよい男よ。わしまでもあやかり
ばさまやうよしでおざりますが、あきのぞみなことには。
おちよの居食(じしき)。弥次や喜多八すまふしまつ。むつかしから
きこへますまい弥次「それでそんなら手合(しあい)して別条(べつだん)はあるめへ
まい北八「ナニとりやア大変(たいへん)だ女「モウおきやアがりまするはさアすせ
ト出ていつてうちもかへりつゝ弥次郎北八はあきれてへやのそと
きゝすむもしよめが弥次郎をひきとめしもあるとさけれ。
あまり詠(ながめ)いるをきもちよめしみておかしくおもひけれ
見ぬまにふらりと弥次郎はひいちやはやくよみかきこへ
弥次郎ふところへ弥次「もしへこれはあれ喜多八アがる北八「ホンニこちらへ
弥次郎ゆうをも

宿(やど)とおもつて八つのころよりあつちこちはなんぞわからへん
しくぱむりまで。畜生(ちくしやう)め弥次「サアたまらねへしごくが出て
くらむりくしハトぶんぶくまくらのうへでてのうのよみをとどきて
ちよこ〳〵と弥次郎は娘をまのあたりにあきれて
おちてまのをきころもさしのぞく北八「コウ弥次さん娘(むすめ)へ入れ
北八もそこらのまゝ。それおきて
いか。おいらもちつとみせてくんな弥次「コリヤきれ
しや。行灯(あんどん)のあかりで北八「ドレ〳〵見せねへ弥次「アレあれひつぱるな
北八「それでもちつと退(のき)るせへ
ト弥次郎がむちうになつてのぞきみいつそのこときのけて
のうしろからおしつけるはずみに北八がおちよのまへへとびこむと
あてもみなまもまつかさまにころげる。むこもよめもおどろき

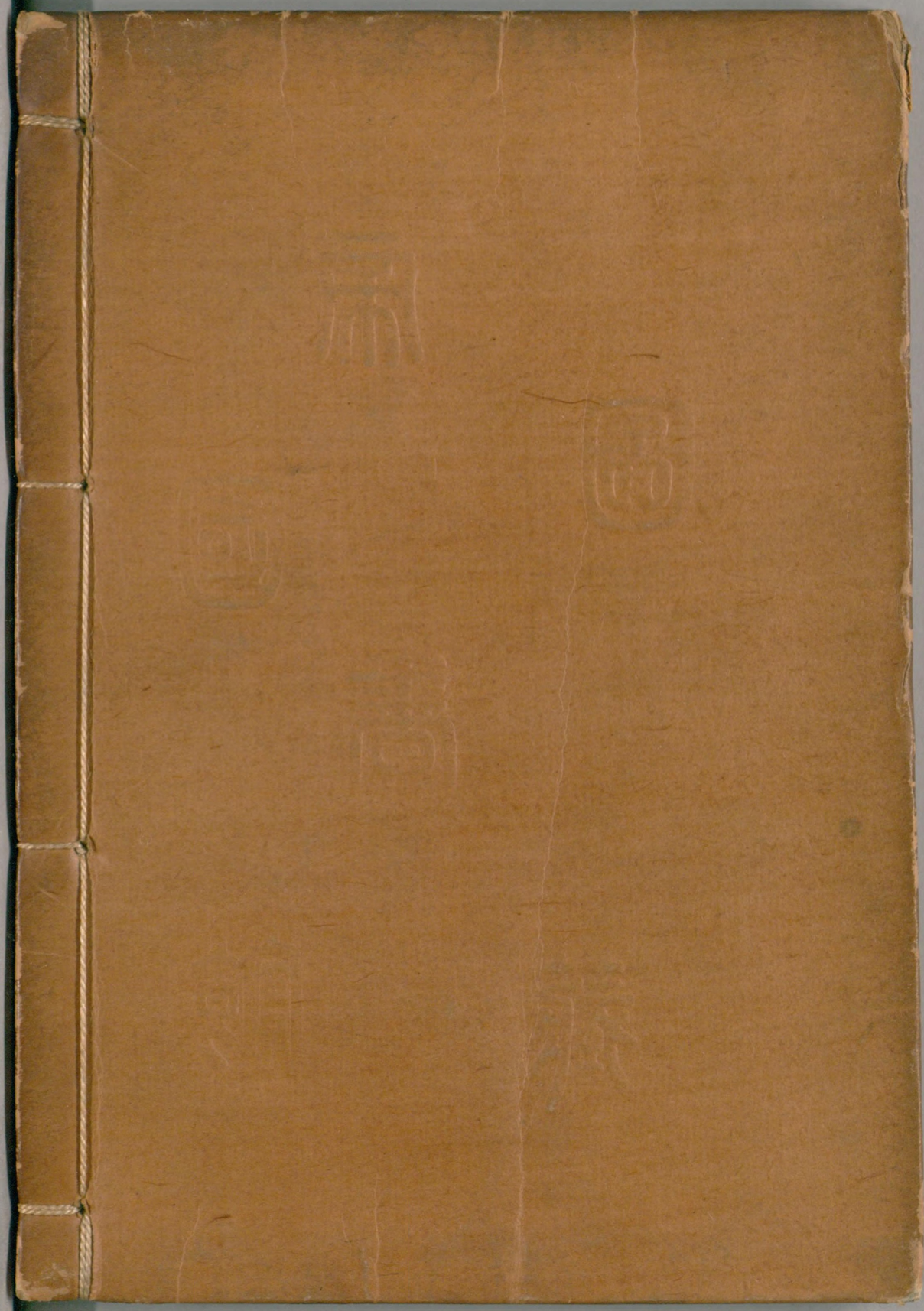
国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53

ガラス使用